

「人形劇のまち飯田」の季刊情報誌

# Dogushi

洞串 -どぐし-

Winter 2017

Vol.16

特大号

特集

## 人形劇の図書館コレクション あれやこれや誌上展覧会



Chiyoko

Dogushi Vol.16 2017年1月発行 発行：人形劇のまち飯田運営協議会  
制作：NPO法人いいた人形劇センター TEL 050-044-3583-3594 FAX 050-044-3594 E-mail: ita-puppet@misjans.or.jp

### 掲示板 いいた人形劇センター からのお知らせ

#### ハンガリーの 小さな舞台が飯田へ

せかいの劇場vol.5



チケット好評販売中!

日程: 2月18日(土)  
①15:00開演 ②18:30開演  
会場: 飯田人形劇場  
出演: ①マイクロディウム「STOP!」、  
人形芝居燕屋「肩掛け人形芝居」  
②マイクロディウム  
「STOP! & CON ANIMA」  
料金: ①大人1,500円  
子ども(3歳~高校生)800円  
※3歳未満は保護者の膝上観劇は無料  
②大人2,000円  
学生(中高生)1,000円  
※小学生以下は入場できません  
定員: ①100人 ②40人  
問合せ: いいた人形劇センター  
☎050-3583-3594

Dogushi

### 並木 さんぽ

飯田市内の小中学校で人形劇の取り組みがされているのは「人形劇のまち飯田」ならでは。これが高校となると話は違って来る。人形劇を続けたくても、始めたくてもその受け皿は限られる。そこでいいた人形劇センターが始めたのが「ユースクラブ」。メンバーはまだ2人だが小学生でも学校の枠を超えた若者のグループができることに期待している。人形劇は人形を操るだけではない。絵を描く、文章を書く、声を出す、歌をうたう、体を動かす、その場の状況を瞬時に判断し対応する…思う以上にさまざまな事柄を一人で何役もこなす。もちろんチームワークも必要。文化部系のように運動部系の要素も満載。小さいころから人形劇に親しむまちの若者だからこそ、この創造活動に興味を持ってもらえたらうれしい。

次号は4月発行予定です。(帆)

表紙イラスト: 井原千代子



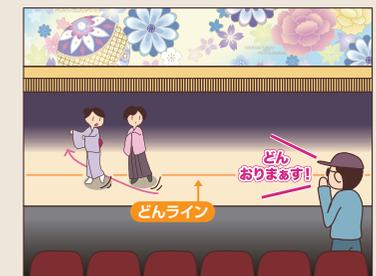
View of IIDA

新春恒例となった公演「初春を奏ぐ竹田人形館」が竹田扇之助記念国際系操り人形館で開催されました。開館から18年、館内にある糸操りの本舞台で竹田人形座代表作の一つ『雪ん子』が初めて上演されました。舞台上に設置された足場「あゆみ」から3mもの糸がついた人形をおりし、下のをぞきこむように操演しているのが信じられない人形の動きに客席は魅了されました。

### わかる!! 人形劇 用語

「緞帳(どんちよう)」  
客席から舞台を隠すための幕が「緞帳」です。開演までと終演後の長い時間、お客様の目に触れる、いわばホールの顔です。飯田人形劇場では、北島新平氏の原画「かざこし姫となかまたち」がデザインされていますし、飯田文化会館は菱田春草の「落葉」です。小規模

な劇場には設置されていないこともあり、設置されている劇場でも演出上この幕を使用しない場合もあります。  
上下に昇降するもののが、中央から割れる「割り緞帳」。上手か下手のどちらか一方の端に開く「引き割り緞帳」。細かいひだをつけた「絞り緞帳」などがあります。  
舞台では、略して「どん」と言うことが多く、舞台監督が大きな声で「どん、お



りまあす」と言ったら、緞帳が下りてくる「どんライン」から離れなくてははいけません。  
(人形芝居燕屋くすのき燕)

シヨンのなから、あれやこれやと引っ張りだしてみれば、いずれ高蒲か杜若、どれもこれも思わず感嘆の声を出してしまふものばかり。  
浮世絵や版画に、番付などの摺物類といった紙資料が中心といえども、もともと狭い館内は足の踏み場もないというくらいに溢れて、紙資料はいぢおう整理されているとのことだが、この写真のように館内の雑然とした一隅には大小さまざまな人形たちも隙間を狙って鎮座している有様。  
ここに見える人形たちは、中央ガラスケースの中に入っているのが天狗久や大江巳之助といった人形師の作。その周りは台湾の布袋戯、チエコのマリオネット、ベルギーのチャンチエ、ドイツのカスバルなどが、佐渡の文弥人形などは転がっているように見ええる。右手奥に続く黒い筆筒には、東北は山形の船町人形や猿倉人形のかしらがなくとも100個以上も収まっているという。

その横には、街頭紙芝居が数百巻も山積みされている。「紙芝居」のとは「紙人形芝居」であ



文楽人形遣い(仮題)  
昭和初期頃 博多人形 作者不詳



人形劇の図書館の一隅、人形たちがそれぞれの存在を主張しているコーナー

特集

人形劇の図書館コレクション

# あれやこれや

誌上展覧会

2016年冬号で好評を博した「ここはまるで人形劇の見世物小屋!!」人形劇の図書館」特集に続く第二弾。今回は、誌上展覧会「人形劇の図書館コレクション」から、興味深い、珍しい、人形劇・人形芝居のさまざまな収集品をご覧くださいませ。

なにしろ、どのようなものがどれだけ集められているのか、当の人形劇の図書館でさえ全容詳細を把握できないままに、さらに増え続けているといわれて、あらゆる人形劇人形芝居の資料コレク

り、「立絵」として紙に描かれた人形すなわち紙人形の芝居が平物の一枚の絵にかわり、紙芝居という呼称になっていったと聞けば、ここにあることも納得。  
そのコレクションから、選りだした貴重な資料のあれやこれやの誌上展示のはじまりはじまり。

まずは上の博多人形をご覧あれ。高さが43cmの大きな博多人形で、三人遣い人形浄瑠璃の様子が人形になっている。つまり、人形劇じゃない人形劇といえるものだ。主遣いの顔は明治から昭和にかけての人形遣い吉田栄三ではないかと思われる。でもよくみれば、足遣いは不在? これは人形の後ろにもひとり黒衣を入れるとあまりにもごちゃごちゃと感じたから省略したのだろうか。それはともかく、風格を感じさせる人形である。



傀儡師  
彩寿作 1970年代  
木目込人形



人形遣い  
市川鉄琅作  
木彫彩色 36cm高

そもそもつとつ木彫彩色の「人形遣い」の人形。一刀彫の作風で、高く差上げた両手遣いの人形は、近松門左衛門が出現したころの人形遣い辰松八郎兵衛、西川伊三郎などをイメージしているであろうか。このようなかたちで人形遣いが出遣いで演じることが、江戸の人形芝居人気の理由の二つとなっていたのではないかと見える。思い切りのよい彫刻で、鮮やかに彩色された人形は、三人遣いとなつていく前の時代の人形浄瑠璃の艶やかさを髣髴させてくれる。



街頭紙芝居は、昭和の初め頃から始まったとされるが、とくに戦後の子どもたちの娯楽として人気が高かった。すべてが手描きで、中には超長編シリーズも存在する。人形劇の図書館には約400巻収蔵されている



「緒芸一覽壽子禄」は大きな浮世絵といえるところだ。それにしても、浮世絵の技術を存分に生かした。このような豪華な摺物は実際にすこく遊びとして使用されたのだろうか。にぎやかに描かれた緒芸に、写し絵、娘義太夫、人形つかいも描かれている。さらに包紙(袋)も付いていて、これだけでも一枚の浮世絵としての価値ありと云える。

さて、今回の誌上展覧会はいかがでしたでしょうか。この実物を見てみたいと思われましたか。それならば、これらの誌上紹介の中の摺物が、飯田市川本喜八郎人形美術館の企画展示「人形劇の図書館コレクションからあれやこれやの人形芝居展」でご覧いただけます。50点を超える珍しい人形劇・人形芝居関連の摺物を中心とした展

諸芸一覽壽子禄 芳藤(西村藤太郎)画、板元松良(横山良八) 明治初期(1870年代)頃 72×48cm 木版

### 人形劇の図書館コレクションから「あれやこれやの人形芝居展」

浮世絵、番付、掛け軸、版画、立版古…人形芝居を描いたさまざまな楽しき摺り物

2月19日(日)まで開催 会場／飯田市川本喜八郎人形美術館 入館料／大人400円、小中高生200円(水曜休館)



淡路都源之丞大一座ポスター 戦前 80×55cm 石版

示は、人形劇人形芝居が上演以外でも、興味深い楽しみが出来ることを知っていただけのことでしょう。

「市村座開場浄瑠璃狂言」の浮世絵は、明治27年(1894)のもので、この年の5月には英国のダーク一座(マリオネット)が初来日上演した、その影響は大きいものがあり、歌舞伎にもささく「鈴音真似操(れいのおとまねてあやつり)」との外題で採り入れられたのだ。つまりマリオネットを歌舞伎が真似て演じたといっわけ、この浮世絵は江戸時代の人形浄瑠璃だけではなく、当時の



市村座開場浄瑠璃狂言 国貞三代 明治27年(1894) 三枚続 木版浮世絵

の松王丸、妹背などがあつた。それにしてもなかなかの趣ある手の込んだぼち袋である。

八犬伝 第11編 為永春水作歌川国芳画 嘉永4年(1852) 18×12cm 木版



する。話の内容や展開には関係はなく表紙絵としてだが、とくにこの国芳の傀儡師はとても秀逸なセンスを感じさせてくれる。



鳥羽絵 三国志 作者不詳 享保5年(1720)

鳥羽絵と呼ばれるいわば漫画の元祖ともいえる独特の絵が、江戸から明治にかけて人気を得ていた。これは鳥羽絵の中では比較的初期の刊本である「鳥羽絵三国志」に描かれた「かいらいし」のふたりで、シンプルな線描

歌舞伎がいかかに人形芝居を意識していたかといえる証しだろう。 ぼち袋にも人形芝居はよく題材として採り入れられている。これは三枚セットの「国粹操り芝居」で、うち2枚が義経千本桜の狐忠信と静御前、右の一枚には娘道成寺の白拍子が描かれている。他にも同シリーズとして寺子屋



ぼち袋 京都さくら井屋版 昭和初期頃 木版

絵草紙「八犬伝」11編の表紙に描かれた傀儡師。もちろん実際ののでなく、絵としての創作だが、なんとダイナミックな描き方であらうか。「斬新奇想天外の絵師」国芳の面目躍如といえるだろう。江戸時代人気があつた今でいえば文庫本となるこうした草紙には、案外に人形芝居が題材として登場



「下條村の民話と伝説」には短い話がいくつもおさめられており、「親田のイゲンタの主」もその一つ



2mサイズの龍をもくもくとつくるリーダーの小島菜々さん



一つ一つの工程を楽しみながらつくります



下條村立図書館「小学生図書館ボランティア」のみなさん。毎週土曜の「おはなし会」で読む絵本は事前にみんなで決め、それぞれ家で練習してきます

**図書館に来る人を  
楽しませたい**

下條村立図書館では来館者に本の楽しみ方を伝える「小学生図書館ボランティア」が活躍しています。毎週土曜日午前中の「おはなし会」では、小学5・6年の児童が絵本の読み聞かせや紙芝居を行います。「3月に6年生の卒業記念としておたのしみ会をすることになり、ボランティアのみんなから人形劇をやりたいと強いリクエストがありました」と司書の近藤明子さん。下條村の民話『親田のイゲンタの主』を題材にして「イゲンタの池」という作品に取り組んでいます。

「みんなが出来るように登場人物を増やしたり、人形の絵を描いたり、やるのがいっぱい。大勢の村の人たちに観てもらいたい」とリーダーの小島菜々さんは話していました。

## シリーズ

# 人形劇に取り組む子どもたち ⑤

飯田市の小中学校では多くの子どもたちが人形劇活動に取り組んでいます。これは全国的に珍しく“人形劇のまち飯田”ならではの特色です。子どもたちが取り組む人形劇活動の様子を紹介するシリーズの五回目は、地元保育園での上演をめざす飯田市立丸山小学校3年2組と、広域にも広がる人形劇活動の例として、下條村立図書館の様子を取り上げます。



絵本「うみやまがっせん」を人形劇に。「うみチーム」「やまチーム」に分かれて人形づくり

## 地元を学ぼう。 飯田といえど…人形劇

飯田市立丸山小学校では3年生になると地域の伝統や文化を学ぶ授業が行われます。1学期は学年で「リング」をテーマに学習。そして、2学期はクラスごとにテーマを決めて活動の幅を広げます。3年2組の児童33人は、担任・松山祐子先生の「飯田と言えど？」の問いかけに「水引」「五平もち」などいくつも意見を出すなかで、自分たちがやってみたいこととして「人形劇」を選びました。「子どもたちのやる気がすごいです。ですがなかなか動かない。私も人形劇をつくるのは初めてなのでプロの方の指導をいただきながらすすめています」と松山先生。

学校の人形劇活動での心配事の1つが指導できる人材がいるかどうか、ということ。そこで飯田文化会館・人形劇のまちづくり係では講師を派遣し、人形づくり方や台本の書き方、上演の仕方などをサポート。この日もプロの指導者が子どもたちと一緒に人形を作り出す。

3月までに地区内の保育園で上演することが目標。その後、稽古を続けて8月のいい大人形劇フェスタの参加をめざします。人形劇をつくること、演じること、いい大人形劇フェスタに参加することを通じて子どもたちが地域の文化をどう理解するのか、完成が楽しみです。



物語の重要な役割を果たすカメ。家から持ってきたぬいぐるみや図鑑を見ながら男子4人で仲良くつくります



子どもたちのイメージははっきりしているため、主役のサルは時間がかかることなく出来上がりました



描いた絵をもとにしながら手袋を組み合わせてタコの8本足をつくる。スチロール球でつくった頭を手袋の足とどうくっつけるかで悩みます

## わくわく イベントスケジュール

2 FEB

### 飯田市公立保育士人形劇研修発表会

2月11日(祝・土) 10:00-13:30  
会場／飯田市竜丘公民館  
料金／200円(3歳未満無料)

### いい大人形劇まつり りんごっこ劇場vol.13

2月12日(日) 10:30開演  
会場／飯田女子短期大学アカシアホール  
料金／200円(3歳未満無料)  
出演／地元アマチュア劇団10組

### 人形劇定期公演

2月26日(日) 14:00開演 会場／飯田人形劇場  
料金／200円(3歳未満無料)  
出演／丸山小人形劇クラブばさ、ふたご座、でんでんむし

3 MAR

### 人形劇定期公演

3月5日(日) 11:00開演予定 会場／飯田人形劇場  
料金／200円(3歳未満無料)  
出演／慈光幼稚園きらきら座、ふくまつ堂、東野人形劇あかね

### 人形劇団むすび座「父と暮せば」飯田公演

3月11日(土) 18:30開演 会場／飯田人形劇場  
料金／大人2,000円、小中高生1,500円  
※未就学児の入場不可  
※託児あり(無料)  
2月28日までにいい大人形劇センターへ申込必要

※開催日時など変更になる場合があります。  
詳細はいい大人形劇センター  
TEL.050-3583-3594へお問合せください



## 修行の旅—— 劇仲間銀の船 宮本和志

初めて「人形劇カーニバル飯田」に参加したのは、第9回の時でした。札幌の仲間と芝居を持って参加。こんな暑いところに千人以上の人形劇人が集まり、街のあちこちで人形劇をしている。保育園、幼稚園、体育館、公民館、お寺など、冷房のない会場もあり、「よくやるわ」と思った。でも、いろんな人たちと出会い、いろんな形式の芝居を見ることができとても楽しかった。それ以来、毎年のように「飯田も」で「夏休み」が始まった。

夏休みになるとすぐ出かける。まず、教育関係の研究會に参加し、それから飯田フェスタに参加し、時間を見つけて山に登り、墓参りに間に合わせてわが家に帰る。いつのころからか「修

# 第5回 すべての道は飯田へ通ず



第10回「人形劇カーニバル飯田」ポスター。神社境内で上演される人形劇を観る筆者が写っているのだが...

行の旅に出る」と言うようになった。地域での公演は楽しい。公演の終わった後に交流会がもたれた。地域の人たちが手づくりの料理でもてなしてくれる。地域の芸能にも触れることができた。「飯田りんごん」で地域の連に出会って、大いに盛り上がったこともあった。

飯田では子どもたちの芝居を意識して観ることにしている。それぞれに個性があつて面白い。これは素晴らしい、という芝居に出会うこともある。教育の現場で人形劇をするということは、指導者のこともありなかなか難しいようだ。それにしてもこの頃は有料公演が多く、「修行の旅」も、なかなか大変になってきた。

いやいや、そんなことは言っておれん。まだまだ修行をせねば...

次号は、人形劇団とんぼり代表・大谷節子さんです



毎年2月の第一日曜日に「北原人形」が奉納される原田神社



北原人形の人形たち

大分県中津市を訪れました。中津市は大分市、別府市に次ぐ県第三の都市で人口は約8万4千人。中津城をはじめとする黒田官兵衛ゆかりの地や福沢諭吉の旧居、日本新三景の耶馬溪など観光資源が有名。そして、飯田市と同じく、人形の伝統を持つ「人形劇のまち」です。

中津市に伝承されるのは非常に独特の人形芝居・人形舞。ひとつは原田神社の万年願で奉納される「北原人形」。その起源は鎌倉時代とされています。文楽と同じ三人遣いを基本としていますが、足の指で人形のかかとを挟んで遣う独特の一人遣いの操演法も伝承し



神相撲が上演される古要神社の拝殿

ています。

もう一つは古要神社に伝承される「神相撲」。同様の人形舞は中津市の隣福岡県中富町の古表神社にも伝承されています。これらの起源はなんと奈良時代。日向の隼人の乱を鎮圧した宇佐八幡が、隼人の霊を慰めるために奉納した傀儡の舞が始まりとされています。手に汗握る神々の取り組みの連続に、境内からは大きな歓声がわき起こるそうです。古要神社の神相撲は3年に一度の10月12日。古表神社は4年に一度の8月6日。地域の人々によって1300年間肅々と受け継がれる人形舞、是非一度体験してみたいものです。



古要神社の看板



古表神社の宮司・熊谷さん。古表神社の「神相撲」は熊谷宮司が口伝で伝承する



古表神社に展示されているレプリカの人形。本物は眠りについている



### Library Cafe

飯田とつながる世界の人形劇図書資料から⑩

### 『信州舞台物語 一団十郎も須磨子もやってきた』

2005年の10月から11月にかけて長野県立歴史館の秋季企画展展示図録として発行されたもの。サブタイトルのように舞台劇が主となっているが、「人形浄瑠璃」が重要な信州の舞台のひとつであることと、「幻燈」もほんの少し取り上げられ、「舞台」を多面的に捉えようとした内容といえる。こうした展示などでは、往々にして人形劇・人形芝居や幻燈などは、隅に追いやられることになるのだが、「信州の舞台」としての伊那谷人形浄瑠璃と、「身近な劇」とし幻燈の存在も明確にし、さらに天保12(1841)年の「7代目市川團十郎の川路興行」を主題とした内容は飯田の演劇史としても興味深いものだ。

(人形劇の図書館館長・湯見英明)



発行 長野県立歴史館 2005年



突撃!!

# 人形劇の ゲン・バ Part14

## “人形劇、だけじゃない 人形劇クラブ

主任講師・くすのき燕さんから指導を受けるメンバー。  
塩澤未波さん(写真左)、小池美星さん

高校生が放課後集まって人形劇をつくっていると情報をキャッチ。さっそく「ゲンバ」をおさえるべく行きました！  
いいだ人形劇センターが高校生・大学生らを対象に平成28年度新設した「ユースクラブ」。人形劇を創ることはもちろん、そのための準備やそれ以外のことにもたっぷり時間をかけるのが特徴で、人形劇を創る時に突き当たる壁をさまざまな体験を通して乗り越えていくプログラムが組まれています。  
ユースクラブのメンバーは高校1年生2人。今年度は2人での人形劇制作・上演のほか、巨大人形劇プロジェクト in 南信州「さんしょううお」に参加。中学生から60代まで異なる世代の参加者と一緒になって、これまで見たことのない大きな造形物を制作・操演する貴重な体験をしました。  
現在は来年度上演する作品選びの真っ最中。観てもう対象、キャストの人数、上演会場のイメージなど、主任講師のくすのき燕さんとディスカッションしながら台本書きに挑戦します。



人形劇初級コースに入り他の参加者グループの制作状況を見ながら自分たちも人形劇づくり。昨秋、飯田人形劇場での定期公演で「なかよし」を上演



昨夏のいいだ人形劇フェスタ2016では巨大人形劇に参加。メンバー2人は水中生物役で登場

### H29年度ユースクラブ メンバー募集!

人形劇を創る、観るだけでなくそれらを取り巻く世界のおもしろさを一緒に体験しよう。

■問合せ ☎050-3583-3594 いいだ人形劇センター

でんでんむし  
伊那市を中心に上伊那・飯田在住のメンバー7人で活動する「でんでんむし」。平成10年に結成して以来、自作の大型紙芝居をさまざまな会場で上演してきましたが、レパートリーを増やそうと5年ほど前から人形劇にも取り組んでいます。人形劇を始めたことで年間の公演回数も増え、あちこち



「でんでんむし」の公演はピアノやキーボードなどを使った生演奏も魅力の一つです



2月26日(日)飯田人形劇場での定期公演に出演します。上演作品は「なかよし」「いたずらねずみ」の二本立て。お楽しみに(写真は昨年3月の定期公演のようす)

から声がかかるように。今では年間約60公演をこなします。  
人形劇を始めた時からメンバーの目標だった「いいだ人形劇フェスタ」には2014年から参加。「初めて参加するときは勇気がいりましたが楽しかった。上演すること、観劇することすべてが勉強になります。人形のつくり方、操作の仕方などすべて自己流なので、プロに教えていただいで技術を身に付けたいと思っています」と代表の上沼則子さん。さらに、「今年はセリフがなく、動きのみで表現する作品をつくりたい」と新しい作品づくりに意欲的なメンバーのみなさんです。

## 日本ウニマ通信 世界みて ある記 ⑥

事務局長 ● 松澤文子

### テアトロ・アニマツィ (ポーランド)

アニマツィはポーランド西部、5番目の大都市で人口58万人のポズナン市にあります。飯田市とはとても縁のある劇団で、人形劇カーニバルの時代に2回来日公演をしています。更に昨年大きなつながりができました。フェスタで公演された、日本ポーランド合作「四季・ポーランド」を共同製作した劇団です。

劇団創立は1945年。現在、劇団は写真でお分かりのようにお城の中にあります。



テアトロ・アニマツィの外観



夜はライトアップされ「美しい!」の一言です。入口のドアはどっしりとした木製で高さ3〜4mあり、もうそれだけで唖然! 中に入つて更にびっくり、幅3mほどの廊下の両側に、一人一部屋の事務室がズラリ! 劇場は200席の大劇場と、小さなスタジオ。準備中でしたが展示場もあり、それはうらやましいばかりでした。

劇団員は50人、役者17人、制作7人、技術7人、美術6人、劇場担当3人、他。年間新しい作品を6作品作り、再演作品は20作品、約450回公演します。国とポズナン市から運営費の90〜95%が助成され、入場料収入で賄うのは5〜10%。日本の人形劇団は、運営費のほとんどを入場料収入で賄っていることを考えると、これまた溜息です。

ポーランドでも絶賛された「四季・ポーランド」を、是非、飯田だけでなく、多くの子どもたちに見てもらえたらいいなと思つています。



「四季・ポーランド」ポーランド公演